

経営戦略の2024年度取組実績について

○水道事業

1 数値目標

項 目			10 年間（2016 年度～ 2025 年度）での目標	2024 年度までの 実績	進捗状況等
経営 指標 等	経 常 収 支 比 率		毎年度 100%以上	102. 03%（※1）	目標達成
	給 水 原 価		毎年度 69 円/㎥以下	67. 48 円/㎥（※1）	目標達成
安定供給の 確保	地震 防災 対策	広域調整池の整備（※2） （2016～2025 5 池整備）	100%	100%	海部広域調整池始め 5 池の整備が完了 （目標達成）
		連絡管等の整備（※2） （2016～2025 3 路線整備）	100%	66%	豊橋城下線始め 2 路線の整備が完了 （進捗に遅れが見られる）
		浄水場等の構造物の整備（※2） （2016～2025 9 浄水場整備）	100%	55%	尾張西部浄水場始め 5 浄水場の整備が 完了（進捗に遅れが見られる）
	老朽化設備更新の進捗率（※2） （2016～2025 53 設備整備）		100%	87%	尾張東部浄水場薬品注入設備始め 46 設 備の整備が完了（概ね計画どおり）
	老朽化管路更新の進捗率 （2016～2025 35 km整備）		100%	59%	西春線送水管始め 22 路線において 20. 5kmの整備が完了（進捗に遅れが見 られる）
安全で良質な水の供給	水質指標（残留塩素）		毎年度 1. 5 倍以下	1. 5 倍（※1）	目標達成
	水質指標（特定 4 項目） 水の臭い等の原因となる物質濃度について、国の水 質基準より厳しく設定した県独自の指標		毎年度 4 項目達成	3 項目達成（※1）	目標 4 項目に対し 3 項目を達成

※1 2024年度（単年度）実績

※2 目標及び実績の進捗率は、整備予定施設数に対する完了施設数の割合（整備中の進捗は計上していない。）

2 経営指標

項 目		2024 年度実績	2023 年度実績 (2023 年度類似団体平均) (※)
経営の健全性	経常収支比率【単年度損益】	102.03%	101.38% (108.93%)
	累積欠損金比率【累積損失】	—	— (8.48%)
	流動比率【キャッシュフロー】	170.53%	174.38% (303.10%)
	企業債残高対給水収益比率【債務残高】	223.83%	228.09% (210.83%)
経営の効率性	料金回収率【料金水準の適切性】	101.17%	100.10% (107.70%)
	給水原価【費用の効率性】	67.48 円／m ³	67.56 円／m ³ (76.25 円／m ³)
	施設利用率【施設の効率性】	65.09%	64.78% (61.63%)
	有収率【供給した配水量の効率性】	99.69%	99.70% (100.36%)
老朽化の状況	有形固定資産減価償却率【施設全体の減価償却の状況】	61.75%	60.83% (60.24%)
	管路経年化率【管路の経年化の状況】	59.15%	58.48% (34.48%)
	管路更新率【管路の更新投資の実施状況】	0.65%	0.21% (0.27%)

※ 類似団体平均は、全国の上水道事業を行う団体のうち、用水供給事業を行う団体の平均

3 2024年度の主な取組実績及び今後の取組

【主な取組実績】

- 健全な経営の維持
 - ・ 物価上昇による維持費の増加に対応するため水道料金の改定を実施
- 地震防災対策の実施
 - ・ 上野知多連絡線の整備
 - ・ 尾張東部浄水場始め3浄水場の耐震化
- 老朽化施設の更新
 - ・ 犬山浄水場フロキュレータ設備始め15設備の整備（うち8設備完了）
 - ・ 美浜線送水管始め21路線の整備
- 安全で良質な水の供給
 - ・ 幸田浄水場活性炭注入設備の更新
- P F I 事業の着実な実施
 - ・ 全浄水場での排水処理施設整備・運営事業等の実施
 - ・ B T コンセッション方式による豊橋浄水場再整備等事業の推進
- デジタル・トランスフォーメーション（D X）の推進
 - ・ 管路情報管理システム及び管路ナビゲーションシステムの再構築
 - ・ 設備台帳システムの構築
 - ・ A I を活用した管路劣化診断予測
- 水道技術職員の人材育成
 - ・ 水道技術育成プログラムに基づく研修の実施等
- 環境に配慮した事業の実施
 - ・ 浄水場発生汚泥の有効利用

【今後の取組】

- 地震防災対策（連絡管、浄水場等の構造物）の実施
- 老朽化施設（浄水場設備、管路）の更新
- 安全で良質な水の供給
- P F I 事業の着実な実施
- デジタル・トランスフォーメーション（D X）の推進
- 水道技術職員の人材育成
- 環境に配慮した事業の実施

○工業用水道事業

1 数値目標

項 目			10 年間（2016 年度～ 2025 年度）での目標	2024 年度までの 実績	進捗状況等
経営 指標等	経 常 収 支 比 率		毎年度 100%以上	116.20%（※1）	目標達成
	給 水 原 価		毎年度 28 円/m ³ 以下	24.91 円/m ³ （※1）	目標達成
安定供給の 確保 (※2)	地震 防災 対策	愛 知 用 水 (2016～2024 8 橋整備)	2016～2024 年度 100%	88%	境川水管橋始め 7 橋の整備が完了 (目標を下回る)
		西 三 河 (2016～2025 12 橋整備)	100%	92%	広田橋水管橋始め 11 橋の整備が完了 (進捗に遅れが見られる)
		東 三 河 (2016～2017 5 橋整備)	100%	100%	広藻橋水管橋始め 5 橋の整備が完了 (目標達成)
		尾 張 (2016～2022 10 橋整備)	100%	100%	飛島第 1 号水管橋始め 10 橋の整備が完了 (目標達成)
	老朽 化施 設更 新	愛 知 用 水 (2016～2025 13 設備整備)	100%	92%	知多浄水場導水設備始め 12 設備の整備が完了 (計画どおり)
		西 三 河 (2016～2022 6 路線整備) (2018～2025 7 設備整備)	100%	100%	岡崎線配水管始め 6 路線及び安城浄水場薬品 注入設備始め 7 設備の整備が完了 (目標達成)
		東 三 河 (2016～2025 10 設備整備)	100%	90%	蒲郡浄水場配水設備始め 9 設備の整備が完了 (計画どおり)
		尾 張 (2016～2025 13 設備整備)	100%	100%	祖父江導水管電気防食設備始め 13 設備の整備 が完了 (目標達成)
	老朽 化管 路更 新	愛 知 用 水 (2016～2025 5 路線整備)	100%	20%	大同築地線配水管の整備が完了 (進捗に遅れが見られる)
		西 三 河 (2023～2025 完了なし)			
		東 三 河 (2021～2025 2 路線整備)	2021～2025 年度 100%	50%	ヤマハ分岐線配水管の整備が完了 (進捗に遅れが見られる)
		尾 張 (2025 計画策定予定)			

※1 2024 年度（単年度）実績

※2 「安定供給の確保」の目標及び実績の進捗率は、整備予定施設数に対する完了施設数の割合（整備中の進捗は計上していない。）

2 経営指標

項 目		2024 年度実績	2023 年度実績 (2023 年度類似団体平均) (※)
経営の健全性	経常収支比率【単年度損益】	116.20%	115.78% (115.02%)
	累積欠損金比率【累積損失】	—	— (1.46%)
	流動比率【キャッシュフロー】	157.55%	171.62% (454.07%)
	企業債残高対給水収益比率【債務残高】	261.31%	273.14% (213.13%)
経営の効率性	料金回収率【料金水準の適切性】	116.80%	115.97% (111.83%)
	給水原価【費用の効率性】	24.91 円／m ³	25.06 円／m ³ (18.36 円／m ³)
	施設利用率【施設の効率性】	58.33%	60.01% (54.73%)
	有収率【供給した配水量の効率性】	99.42%	98.56% (99.21%)
老朽化の状況	有形固定資産減価償却率【施設全体の減価償却の状況】	67.61%	67.17% (62.44%)
	管路経年化率【管路の経年化の状況】	38.14%	34.49% (52.79%)
	管路更新率【管路の更新投資の実施状況】	0.08%	0.16% (0.31%)

※ 類似団体平均は、全国の工業用水道事業を行う団体のうち、配水能力規模が200,000m³/日以上の子団体の平均

3 2024年度の主な取組実績及び今後の取組

【主な取組実績】

- 地震防災対策の実施
 - ・ 新川水管橋の整備
- 老朽化施設の更新
 - ・ 尾張東部浄水場(東郷)導水設備始め4設備の整備（うち2設備完了）
 - ・ 九号地配水管始め7路線の整備（うち1路線完了）
- P F I 事業の着実な実施
 - ・ 全浄水場での排水処理施設整備・運営事業等の実施
 - ・ B T コンセプション方式による豊橋浄水場再整備等事業の推進
- デジタル・トランスフォーメーション（D X）の推進
 - ・ 管路情報管理システム及び管路ナビゲーションシステムの再構築
 - ・ 設備台帳システムの構築
 - ・ A I を活用した管路劣化診断予測
- 水道技術職員の人材育成
 - ・ 水道技術育成プログラムに基づく研修の実施等
- 環境に配慮した事業の実施
 - ・ 浄水場発生汚泥の有効利用

【今後の取組】

- 地震防災対策（水管橋、場外ポンプ場停電対策）の実施
- 老朽化施設（浄水場設備、管路）の更新
- P F I 事業の着実な実施
- デジタル・トランスフォーメーション（D X）の推進
- 水道技術職員の人材育成
- 環境に配慮した事業の実施

○用地造成事業

1 数値目標

項 目		10 年間（2016 年度～2025 年度）での目標		2024 年度までの実績		進捗状況等
経営指標	経常収支比率	毎年度 100%以上		147.99%（※）		目標達成
分譲、リース面積	内陸用地	2016 年度～2020 年度	2021 年度～2025 年度	2016 年度～2020 年度	2021 年度～2024 年度	・ 2016 年度～2020 年度は豊田・岡崎地区始め 8 地区において 703.6 haの用地を分譲（目標達成） ・ 2021 年度～2024 年度は西尾次世代産業地区始め 6 地区において 89.7 haの用地を分譲（計画どおり）
		700 ha	100 ha	703.6 ha	89.7 ha	
	臨海用地	2016 年度～2020 年度	2021 年度～2025 年度	2016 年度～2020 年度	2021 年度～2024 年度	・ 2016 年度～2020 年度は御津 2 区始め 8 地区において 83.6 haの用地を分譲・リース（目標達成） ・ 2021 年度～2024 年度は田原 4 区始め 5 地区において 24.6ha の用地を分譲（計画どおり）
		30 ha	30 ha	83.6 ha	24.6 ha	
造成完了面積	内陸地区	2016 年度～2020 年度	2021 年度～2025 年度	2016 年度～2020 年度	2021 年度～2024 年度	・ 2016 年度～2020 年度は豊田・岡崎地区始め 5 地区において 691.1 haの用地を造成（目標を下回る） ・ 2021 年度～2024 年度は西尾次世代産業地区始め 5 地区において 107.0 haの用地を造成（目標を下回る見込み）
		750 ha	160 ha	691.1 ha	107.0 ha	
	臨海地区	2016 年度～2020 年度	2021 年度～2025 年度	2016 年度～2020 年度	2021 年度～2024 年度	・ 2016 年度～2020 年度は御津 1 区始め 4 地区において 47.0 haの用地を造成（目標を下回る） ・ 2021 年度～2024 年度は田原 4 区始め 3 地区において 15.0 haの用地を造成（目標を下回る見込み）
		60 ha	40 ha	47.0 ha	15.0 ha	

※ 2024 年度（単年度）実績

2 経営指標

項 目		2024 年度実績	2023 年度実績 （2023 年度全国平均）（※）
経営の健全性	経常収支比率【単年度損益】	147.99%	116.59% （125.88%）
	流動比率【キャッシュフロー】	335.96%	266.98% （426.45%）

※ 全国平均は、宅地造成事業を行う全国の公営企業の平均

3 2024年度の主な取組実績及び今後の取組

【主な取組実績】

- 分譲用地の販売促進
 - ・ あま方領地区について、立地エントリー登録受付開始
 - ・ 安城北山崎地区（第1期）について、立地エントリー登録受付開始
 - ・ 幸田須美地区について、先行契約方式による分譲受付
 - ・ 中部臨空都市の港湾ゾーンの分譲開始
 - ・ 中部臨空都市について、地元常滑市等の意見も参考にしながら、新たな将来ビジョンをとりまとめ
- 用地造成の推進
 - ・ あま方領地区の造成工事着手
 - ・ 愛西佐屋地区の新規事業化
 - ・ 豊川白鳥地区の新規事業化
 - ・ 半田石塚地区の新規事業化
 - ・ 刈谷依佐美（2期）地区の新規事業化

【今後の取組】

- 半導体産業を始めとする先端分野の企業を中心とした企業訪問の実施
- 次世代産業関連企業及び航空宇宙産業を中心とした企業訪問の実施
- 中部臨空都市への企業誘致（愛知県国際展示場やイオンモール常滑との相乗効果が期待できる施設等）
- 企業ニーズを的確に把握し、採算性を確保した新規開発の実施
- ホームページを充実するとともに、企業誘致業務におけるデジタル化を進めることによる効率的かつ効果的なプロモーション活動の実施
- 事業量に応じた適正な組織体制の構築